

畳床を科学する。

畳の芯にあたるのが畳床！目に触れる機会はないが、畳の機能・性質を大きく左右する重要なポイントです！

畳を上げて大掃除をする習慣がなくなった今日では、「自分の家の畳はワラ床を使用している」と錯覚している人が多いと思います。しかし、現在市場に出ている畳の約85%は建材床なのです。

畳床は大きく分けると3種類

ワラ床

昔ながらの、ワラを何層にも重ね合わせたもので、ワラの質・層の多さ・縫目の間隔等で品質が決まる。ワラは縦横交互に3〜5層に配列され、3万本以上使用される。約40cmまで積んだワラを約5cmの厚さまで圧縮して作られるため、畳ならではの感触や味わい、吸放湿性・耐久性・復元力という点で一番優れている。換気など住まいの管理が悪いとダニが発生することもあります。

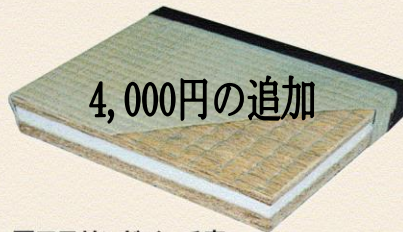


■ワラ床

昔ながらの、ワラを何層にも重ね合わせたもの。

ワラサンドイッチ床

ワラの上にポリスチレンフォーム・インシュレーションボード等を挟み込んだもの。ワラ床の味わいと建材床の断熱性や防音性等の長所を合わせ持っている。

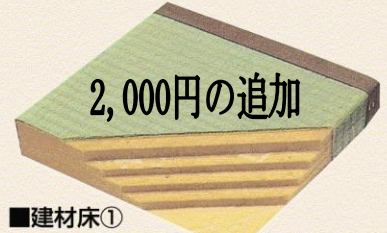


■ワラサンドイッチ床

ワラの上にポリスチレンフォーム・インシュレーションボード等を挟み込んだもの。

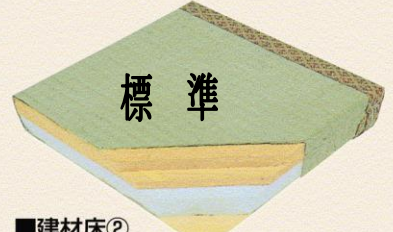
建材床

ワラを一切使わないで、ポリスチレン樹脂と発泡剤でつくったポリスチレンフォームや、細かい木材を圧縮したインシュレーションボードを使用したもの。軽くて低コスト。しかも、ダニ・カビが繁殖しにくく、断熱性・防音性・耐久性等の優れた機能を持っている。



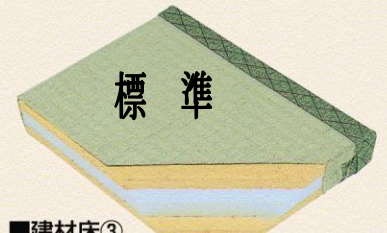
■建材床①

インシュレーションボードのみで構成されたタイプ。断熱・防音に優れている。



■建材床②

インシュレーションボードとポリスチレンフォームの2層式タイプ。コンクリートに直敷きでき、重量もワラ床の半分以下。

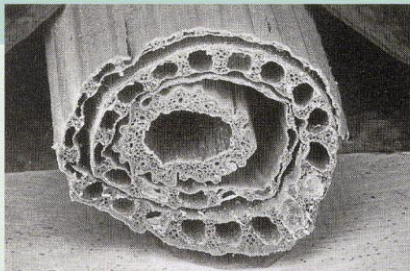


■建材床③

インシュレーションボードでポリスチレンフォームの上下をはさんだサンドイッチ構造。幅広い用途に使い、しかも軽量。

生活習慣で畳を選ぶ

ワラとイグサでつくられた畳は、湿度の高い日本風土に最適な自然素材です。しかし、現代の住環境では逆に欠点となってしまうケースが起こってきました。今の住宅は気密性が高く、共働きなどで1日中閉め切って換気が不十分であると、畳は空気中の湿気をどんどん吸うため、ダニやカビの繁殖に格好の場所となってしまうのです。そのため、軽くて低コストといった施工面の利点により、現在ではワラ床にかわり建材床が主体となっています。生活スタイル・住宅構造に合わせて畳の素材を選択することが、畳の優れた機能を発揮するための重要なポイントです！



●ワラの断面写真

ワラの1本1本は中が空洞でストロー状になっており、たくさんの空気を持っています。そのため強い弾力性とともに適度のクッション性、優れた耐久性と吸音・遮音効果、断熱性があり、畳1枚が吸収する水分は約500ccで、さらに自然に放湿します。



日本女子大学 理学部
助教授
南澤 明子 先生

畳は日本の気候、風土にあった先人の知恵の結晶であり、日本人の生活や文化になくはならないものです。畳は畳表のイグサと畳床のワラからなる複合構造で、室内の湿度を吸放湿して適度な湿度に調整することができます。また、適度な弾力性があり、その上で生活する人間の健康生活にも役立っています。畳表のイグサは、調湿機能のほか、空気中の二酸化窒素などの有害物質を吸着するなど、空気清浄能力も持っています。このような畳を上手に手入れして、大切に使用したいものです。

信頼のパートナー **KIT** 健康畳店会

中井畳店

田辺市新庄町2049

電話 0739-22-3025
携帯 090-1029-8322